

小学校社会科授業における子どもの「思考」の評価
—探究過程における「思考」の構造を視点として—

教育内容・方法開発専攻

認識形成系コース

M11125J

大西慎也

I 研究の目的と方法

1 研究の目的

- (1) 社会科授業における「思考」の評価を明確にするために、「思考」に関する研究成果をもとにした、社会科授業における探究過程の「思考」の構造を明らかにする。
- (2) 明らかになった「思考」の構造をもとにして、「思考」の評価を明確にした社会科授業と評価問題を開発する。

2 研究の方法

- (1) 社会科教育学の先行研究を分析し、社会科教育学における「思考」のとらえ方、「思考」の評価方法についての課題を明らかにする。
- (2) 社会科授業における探究過程を、社会科教育学の先行研究、認知心理学、論理学、社会学、分析哲学の研究成果にもとづいて明らかにして、社会科授業の探究過程における「思考」過程を示す。
- (3) 明らかになった探究過程における「思考」過程にもとづいて、社会科授業の探究過程における「思考」の構造を明らかにし、評価方法を提案する。
- (4) 分析フレームワークを作成し、社会科授業における思考力の育成や「思考」の評価を明示した、先行授業実践を分析し、分析結果を考察する。
- (5) 探究過程における「思考」の構造にもとづいた、「思考」の評価方法を明確にした小学校社会科授業モデルを開発する。

(6)「思考」の評価を明示した評価問題を分析し、小学校社会科授業における評価問題の課題を明らかにし、本研究の研究成果を組み込んだ評価問題を開発する。

論文構成

序論

第Ⅰ章 社会科教育学における「思考」の評価と課題

第Ⅱ章 社会科の「分かる」過程における「思考」の構造

第Ⅲ章 社会科の「考える」過程における「思考」の構造

第Ⅳ章 「思考」の構造にもとづいた「思考」の評価

第Ⅴ章 社会科先行授業実践の分析

第Ⅵ章 探究過程の「思考」をもとに「思考」の評価を明確にした社会科授業モデルの開発

第Ⅶ章 「思考」の評価を明確にした評価問題の開発

結論

Ⅱ 研究の概要

1 社会科教育学における「思考」の評価と課題

社会科教育学における「思考」と「思考」の評価の先行研究を分析し、社会科における「思考」は探究過程であり、「思考」の評価は明確になっているとはいえないことが明らかになった。

2 社会科の「分かる」過程における「思考」の構造

社会科授業の探究過程における「思考」は、知識の習得の過程において、因果関係にもとづいて社会事象を仮に説明し、それを検証するために働く行為であり、アブダクション、演繹的推論、帰納的推論の過程をたどることが明らかになった。

3 社会科の「考える」過程における「思考」の構造

「価値分析・未来予測」の過程は、「論争問題の発見、把握」「事実の分析的検討」「未来予測」「価値判断」という過程をたどっている。それは、「認識意味形成」「情緒意味形成」「判定」という段階を経ており、「認識意味形成」の段階である「事実の分析的検討」が重要であることが明らかになった。

4 「思考」の構造にもとづいた「思考」の評価

子どもの内面の行為である「思考」を、「モデル」の作成によって間主観化する方法を明らかにし、「思考」の構造にもとづき、評価基準を示した。

5 社会科先行授業実践の分析

明らかになった「思考」過程と「思考」の構造にもとづいて、フレームワークを作成し、社会科先行授業実践を分析し、「思考」の評価において、「知識・理解」との区別に課題があることが明らかになった。

6 探究過程の「思考」をもとに「思考」の評価を明確にした社会科授業モデルの開発

ここまでに明らかになった「思考」過程と「思考」の構造にもとづいて、小学校5年生の単元「世界自然遺産小笠原諸島」の授業モデルを開発した。

7 「思考」の評価を明確にした評価問題の開発
課題であった、「知識・理解」との区別を明確にした「思考」の評価問題を開発した。

III 成果と課題

1 成果

- (1) 社会科教育学における「思考」に関する研究成果、認知心理学、論理学、社会学、分析哲学の先行研究を整理し、社会科授業における探究過程の子どもの「思考」過程、「思考」の構造を明らかにし、評価方法を提案することができた。
- (2) 「分かる」過程と「考える」過程における、子どもの「思考」の構造にもとづいた授業モデルを開発することができた。
- (3) 「思考」を評価する評価問題の課題を明らかにし、本研究の研究成果にもとづいた、「思考」を明確に評価する評価問題を開発することができた。

2 課題

- (1) 明らかにした子どもの内面の行為である「思考」を間主観化する方法を、精緻化する。
- (2) 社会科授業における「判断」の評価を明確にするために「判断」の構造を明確にする。さらに「判断」に至る「思考」の構造の精緻化する。
- (3) 本研究で開発した授業モデルを実践し、「思考」の評価に関しての課題を明らかにし、他の単元の授業モデルを開発し、さらに評価問題も開発する。

主任指導教員 原 田 智 仁
指導教員 米 田 豊